



## 2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月11日

上場会社名 株式会社アイキューブドシステムズ 上場取引所 東  
 コード番号 4495 URL <https://www.i3-systems.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員社長 CEO (氏名) 佐々木 勉  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 小野 崇 (TEL) 092-552-4358  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年6月期第3四半期の連結業績(2022年7月1日~2023年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	1,986	9.0	489	△26.4	488	△26.8	332	△27.8
2022年6月期第3四半期	1,821	—	665	—	666	—	460	—

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 332百万円(△27.8%) 2022年6月期第3四半期 460百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	62.98	62.22
2022年6月期第3四半期	87.71	86.09

(注) 当社は、2022年6月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	3,131	2,460	78.4
2022年6月期	3,202	2,223	69.3

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 2,454百万円 2022年6月期 2,220百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年6月期	—	0.00	—		
2023年6月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,734	11.4	657	△20.5	658	△19.5	452	△16.2	85.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年6月期3Q	5,281,350株	2022年6月期	5,274,850株
2023年6月期3Q	168株	2022年6月期	121株
2023年6月期3Q	5,278,868株	2022年6月期3Q	5,250,574株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症に関する行動制限や水際対策の緩和により、社会経済活動の正常化が進む一方で、原材料価格の高騰による物価の上昇や、各国の金融政策の動向などに対する懸念が長期化しており、引き続き先行き不透明な状態が続きました。

このような市場環境の中、当社グループは2020年7月の上場以降を第3創業期と捉え、2022年6月にコーポレートブランドを刷新しました。パーパスを「笑顔につながる、まだ見ぬアイデア実現の母体となる」、提供価値を「デザインとエンジニアリングの力で、挑戦を支える」と定義した上で、「挑戦を、楽しもう。」をブランドスローガンに掲げ、挑戦的な文化を醸成し、ITを軸とした様々な挑戦を積極的に進めていく企業を目指しております。

また当社は、Great Place to Work® Institute Japanが世界共通の基準で従業員の意識調査を行う、2023年版「働きがいのある会社」ランキングにおいて、3年連続で働きがいのある会社として認定されました。当社は、全社的なリモートワーク体制と、コアタイムを設けないフルフレックスタイム制を採用しており、柔軟な働き方の実現を推進しております。また、性別や国籍、居住地を問わない採用活動により多様性のある組織づくりを推進するとともに、人材育成のための研修などの成長支援を通じて、挑戦を積極的に行う文化の醸成に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間においては、主軸事業であるCLOMO事業は、法人利用向けスマートフォンの調達不調が続くなど外部環境の影響を受けながらも導入法人数は堅調に増加しました。また、OEM提供の開始に伴う受託開発業務などの一時的な売上も発生したことで、売上高が増加しております。費用面については、製品開発力の増強を目的に、新たに開拓した委託先企業と積極的に開発投資を進めたことで、ソフトウェア製品のリリースが増加し減価償却費を含む売上原価が前年同期比で増加しております。また、営業拠点の拡大に伴う人材の増強や、情報セキュリティ体制強化に向けた投資に加えて、人的資本に対する取り組みとして給与体系及び評価制度の見直しによる従業員給与のベースアップを図っており、販売費及び一般管理費についても前年同期比で増加しております。

このような取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,986,693千円（前年同期比9.0%増）、営業利益489,798千円（前年同期比26.4%減）、経常利益488,198千円（前年同期比26.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益332,487千円（前年同期比27.8%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① CLOMO事業

CLOMO事業においては、2010年から提供を開始したモバイル端末管理サービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」（以下、CLOMOサービスとする）を事業の軸に、クラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供しており、2022年12月に公表されたMDM市場（自社ブランド）シェアにおいて、2011年度から12年連続でシェアNo. 1を達成しました（注1）。

当第3四半期連結累計期間においては、北海道、宮城県、愛知県に新たな営業拠点を開設しました。2023年6月期において計画していた営業拠点の新設が完了し、全国の顧客に対する支援体制を強化しております。また、主要な販売パートナーである株式会社NTTドコモが提供するMDMサービスのリニューアルに伴い、当社のCLOMO MDMが採用され、OEM提供を開始しました。なお、リニューアル前の「あんしんマネージャー」の新規契約受付は2023年3月に終了し、サービスの提供も2026年3月に終了を予定していることから、リニューアル後の「あんしんマネージャーNEXT」（注2）への契約移行は2026年3月までに完了する見通しです。販売パートナーとの協業とOEM提供による販売を通じて、CLOMOサービスの販売拡大に取り組んでまいります。

機能面においては、サイバー攻撃などの様々な脅威からモバイル端末を守り、顧客が安心・安全にモバイル端末を利用できるよう、CLOMOサービスとエンドポイントセキュリティソリューションとの連携を進めております。その上で、2022年10月より、Deep Instinct社が開発・提供をする「Deep Instinct」（注3）とCLOMO MDMを組み合わせた「CLOMO MDM エンドポイントセキュリティ secured by Deep Instinct」の提供を開始しました。

また、モバイル端末の導入時に必要な端末の初期設定などの作業を代行する新サービスとして「CLOMO キットアップサービス」を開始しました。CLOMO MDMの初期設定を支援する「サポートチケット」や、運用を代行する「CLOMO 運用代行サービス」などのサービスも提供しており、モバイル端末の導入から運用まで幅広くサポートするサービスメニューの拡充により、顧客企業でMDMを運用する担当者の業務負荷軽減に貢献するとともに、ラ

イセンス継続率とARPUの向上に取り組んでおります。

さらに、業務効率化やデジタル化を進めている医療機関におけるモバイル端末管理、リモートワークでのIT資産管理、製造業や運送業におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)推進に伴う業務専用端末管理など、社会変化に伴う新たなMDMの需要に対しては、導入事例記事を積極的に公開し、CLOMOサービスの活用方法や品質について理解促進を図るほか、当該分野に強みを持つ新たな販売パートナーの開拓を進めております。また、2022年9月に公開したオウンドメディア「なるモ」にてモバイル端末の活用に関する情報記事を継続的に作成し、ブランド認知度及びMDM導入率の向上に向けた啓蒙活動に取り組んでおります。

カスタマーサクセス活動においては、顧客との関係強化に向けた定期的な面談の実施に加え、CLOMO MDMの基本的な利用方法から、より効果的な活用方法までを学べる「CLOMO ステップアップセミナー」を月数回開催しております。また、2023年1月に第6回CLOMOユーザーミーティングをオンラインで開催し、160名のMDM運用担当者にご参加いただきました。このように、多くの顧客と定期的に接点を持ち、CLOMOサービスの活用を促進することで、高い継続率の維持に取り組んでおります。

開発においては、CLOMOサービスのPC資産管理市場でのシェア獲得に必要なWindows端末向けの機能強化のほか、他社のエンドポイントセキュリティ製品との連携など、顧客のニーズに応えるための機能改善に引き続き注力しており、「Azure Kubernetes Service (AKS)」（注4）や「Xamarin」（注5）といった新たな技術の継続活用による生産性の向上を図っております。また、製品開発の一部を外部に委託するための委託先企業の開拓による開発力の増強が進んだことで、新技術調査など、将来的な製品価値向上のための研究開発活動に対してもリソースを投資しております。

これらの取り組みにより、導入社数は4,461社(前連結会計年度末に比べ546社、13.9%増加)に達しました。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当第3四半期連結累計期間の経営成績や、当社グループが目標とする経営指標(CLOMOサービスの導入社数の増加、ライセンス継続率)への直接的な影響は極めて軽微でありました。一方で、当第3四半期連結累計期間においても、前連結会計年度に引き続き、法人利用向けスマートフォン調達不調により、一部顧客において、サービスの契約開始時期に遅れが生じております。

この結果、売上高は1,986,693千円(前年同期比9.0%増)、営業利益は500,989千円(前年同期比25.2%減)となりました。

なお、サービス別の内訳は次のとおりであります。

CLOMO MDM	売上高	1,810,574千円
SECURED APPs	売上高	119,017千円
その他	売上高	57,100千円

## ② 投資事業

投資事業は前連結会計年度より開始した新規事業であり、2021年11月にベンチャーキャピタル子会社として株式会社アイキューブドベンチャーズを設立いたしました。また、2022年1月に当該子会社を通じてアイキューブド1号投資事業有限責任組合を設立し、CVC(コーポレートベンチャーキャピタル)として投資活動を実施しております。2023年6月期においては3社へ投資を行い(注6)、これまでの投資先社数は5社となりました。

なお、主な投資対象はモバイル、SaaS、セキュリティ等、当社事業領域と親和性の高い企業、社会課題解決型企業及び当社グループが本社を置く九州の地場で活動している企業としております。

また、当社グループの新たな市場領域への進出及び収益源の創出を図るべく、M&Aを通じた新事業開発にも積極的に取り組んでおります。

この結果、営業損失は11,191千円(前年同期は営業損失3,450千円)となりました。

- (注) 1. 出典 デロイト トーマツ ミック経済研究所「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」2011~2020年度、「ミックITレポート2022年12月号」2021年度出荷金額実績及び2022年度出荷金額予想。
2. 株式会社NTTドコモが提供しているモバイルデバイス管理サービス。主に、社員・生徒に貸与したデバイスに対して紛失・盗難時に有効な「ロック/初期化」機能や、「カメラ制御」「利用可能アプリの制限」などのセキュリティ機能、「アプリ配信」などのデバイス管理業務効率化機能を持つ。
3. Deep Instinct社が独自でサイバーセキュリティのために構築した世界で初めて(2020年12月時点での

Deep Instinct社調査による)となるディープラーニングのモデルを用いて、将来発生しうるマルウェアやゼロデイ攻撃などの未知の脅威を予測し、モバイルデバイスやPCなどの機器への侵入を未然に防ぐエンドポイントセキュリティのソリューション。

4. マイクロソフト社が提供するコンテナ化技術。CLOMOシステムをコンテナベースとすることで、信頼性の向上や運用負担の軽減、運用コストの削減を進めている。
5. マイクロソフト社が提供するアプリケーション開発用のプラットフォーム。iOS、Android、Windowsという異なる環境で動作するCLOMOアプリケーションのソースコードを共有化することで、開発速度の向上や省力化を進めている。
6. アイキューブド1号投資事業有限責任組合の決算日は連結決算日と異なっており、当第3四半期連結累計期間においては、同組合の2022年12月31日に終了する四半期累計期間の財務諸表を連結しております。そのため、当該投資のうち、2023年1月1日以降に実行されたものにつきましては当第3四半期の連結財務諸表には反映されておられません。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態については次のとおりであります。

### (資産)

総資産は3,131,025千円となり、前連結会計年度に比べ71,729千円の減少となりました。これは主に現金及び預金が増加し、売掛金が減少し、営業投資有価証券が増加し、そのほか流動資産が増加したことによるものであります。

### (負債)

負債は670,198千円となり、前連結会計年度末に比べ308,628千円の減少となりました。これは主に未払法人税等が増加し、契約負債が増加し、そのほか流動負債が増加したことによるものであります。

### (純資産)

純資産は2,460,827千円となり、前連結会計年度末に比べ236,898千円の増加となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加し、剰余金の配当に伴い利益剰余金が減少したことによるものであります。この結果、自己資本比率は78.4%（前連結会計年度末は69.3%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の連結業績予想につきましては、2022年8月9日公表の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,337,409	1,892,270
売掛金	234,349	257,115
営業投資有価証券	149,992	209,989
その他	58,597	72,775
流動資産合計	2,780,348	2,432,151
固定資産		
有形固定資産	31,901	34,371
無形固定資産		
ソフトウェア	51,537	86,281
ソフトウェア仮勘定	169,222	283,349
その他	6,083	8,503
無形固定資産合計	226,843	378,134
投資その他の資産	163,662	286,368
固定資産合計	422,406	698,874
資産合計	3,202,755	3,131,025
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	59,190	64,153
未払法人税等	185,677	18,252
契約負債	496,925	420,735
賞与引当金	49,866	46,724
その他	187,166	120,332
流動負債合計	978,826	670,198
負債合計	978,826	670,198
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	404,412	408,030
資本剰余金	304,412	308,030
利益剰余金	1,511,877	1,738,870
自己株式	△661	△774
株主資本合計	2,220,039	2,454,156
新株予約権	1,950	3,915
非支配株主持分	1,938	2,755
純資産合計	2,223,929	2,460,827
負債純資産合計	3,202,755	3,131,025

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,821,880	1,986,693
売上原価	265,549	437,108
売上総利益	1,556,330	1,549,584
販売費及び一般管理費	890,425	1,059,785
営業利益	665,905	489,798
営業外収益		
受取利息	42	33
受取配当金	739	-
その他	433	157
営業外収益合計	1,215	191
営業外費用		
その他	320	1,792
営業外費用合計	320	1,792
経常利益	666,800	488,198
税金等調整前四半期純利益	666,800	488,198
法人税等	206,276	155,893
四半期純利益	460,524	332,304
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△183
親会社株主に帰属する四半期純利益	460,524	332,487



## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	460,524	332,304
四半期包括利益	460,524	332,304
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	460,524	332,487
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△183

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,821,880	—	1,821,880	1,821,880
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,821,880	—	1,821,880	1,821,880
セグメント利益 又は損失(△)	669,356	△3,450	665,905	665,905

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,986,693	—	1,986,693	1,986,693
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,986,693	—	1,986,693	1,986,693
セグメント利益 又は損失(△)	500,989	△11,191	489,798	489,798

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。